

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準
4月	<p>朝のリレー 1時間</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。</p> <p>【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。</p>
4月	<p>言葉に出会うために 野原はうたう 1時間</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫している。</p> <p>→情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫している。</p> <p>【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。</p>
4月	<p>声を届ける 書き留める 言葉を調べる 続けてみよう 4時間(話聞②書②)</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →聞き手を意識して速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫している。</p> <p>【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして声を届けようとしている。</p> <p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →線や矢印で情報を整理している。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →これまでに読んだ本などを基に、印象に残った言葉を書き留めている。 <p>【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理して「言葉の手帳」に書き込んでいる。</p> <p>【態】進んで日常生活の中から題材を決め、これまでの学習を生かして「言葉の手帳」を作ろうとしている。</p>
5月	<p>シンシュン 4時間</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →登場人物の心情や行動を表す言葉に着目して作品を読み進めている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。</p> <p>【態】場面の展開について、描写を基に積極的に捉え、学習課題に沿って感想を交流しようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準
5月	<p>【聞く】 情報を的確に聞き取る 1時間</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>◎必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	<p>【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →5W1Hに注意して、キーワードとなる言葉を書き留め、番号や記号を用いて整理している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →日常の話題について、情報を整理し、聞き取る内容を考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →情報を的確に聞き取り、要点を押さえてメモしている。 <p>【態】 進んで記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、学習課題に沿ってメモを取ろうとしている。</p>
5月	<p>季節のしおり 春 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →春に関わる言葉にふれ、それぞれの春の情景を想像している。</p> <p>【態】 伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>
5月	<p>情報整理のレッスン 比較・分類 1時間</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →情報の整理のしかたを理解し、情報を比較したり、分類したりしている。</p> <p>【態】 学習課題に沿って、積極的に情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使おうとしている。</p>
5月	<p>情報を整理して書こう わかりやすく説明する 4時間</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →集めた情報を、観点に沿って比較したり、共通点を見つけて分類したりして整理している。</p> <p>【思・判・表】 「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →目的や相手を意識して、情報を集めて整理し、説明の文章の構成を考えている。</p> <p>【態】 集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明しようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準
5月	<p>漢字 1 漢字の組み立てと部首</p> <p>漢字に親しもう 1</p> <p>1 時間</p> <p>◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)→漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
6月	<p>ダイコンは大きな根?</p> <p>2 時間</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)→本文中で比較がどのように使われているかを理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)→「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。</p> <p>【態】文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、学習課題に沿って筆者の工夫を伝え合おうとしている。</p>
6月	<p>ちょっと立ち止まって</p> <p>3 時間</p> <p>◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)→筆者の主張と事例との関係を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)→序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。</p> <p>【態】進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。</p>
6月	<p>思考のレッスン 1</p> <p>意見と根拠</p> <p>1 時間</p> <p>◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)→説得力のある根拠や、意見と根拠の結び付きについて理解している。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。</p>
6月	<p>話の構成を工夫しよう</p> <p>好きなことをスピーチで紹介する</p> <p>4 時間</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>◎自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の</p>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)→声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →聞き手を意識して話題を決め、話の内容を選んで整理している。 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A(1)イ) →聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準
	言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★紹介など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	話す順番を工夫している。 【態】話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。
6月	漢字に親しもう2 1時間 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)→小学校で学習した漢字の熟語を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
6月	文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう 2時間 ◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ)→文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。 【態】単語の類別を理解するために、今までの学習を生かして、積極的にその前提となる言葉の単位について理解しようとしている。
6月	情報を集めよう 情報を読み取る 情報を引用しよう 3時間(読①書②) ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア) ★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)→グラフや文章の中の情報を関連づけて情報を整理し、引用のしかたや出典の示し方を理解している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →調べたいテーマについて、本やインターネットを活用して情報を集め、整理し、伝えたいことを明らかにして書いている。 ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) →必要な情報に着目して要約し、内容を理解している。 【態】引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、学習課題に沿ってそれらを使おうとしている。
7月	詩の世界 【書く】詩を作ろう 3時間(読②書①) ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎根拠を明確にしながらか、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	【知・技】 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) →表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →詩に描かれている情景を想像し、表現の効果を考えている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準
	<p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★詩や解説文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★詩を創作し、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	<p>・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>→自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。</p> <p>【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。</p>
7月	<p>比喩で広がる言葉の世界 2時間</p> <p>◎比喩などの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)</p> <p>→文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)</p> <p>→各段落の役割を理解し、要旨を捉えている。</p> <p>【態】進んで要旨を把握し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。</p>
7月	<p>言葉 1 指示する語句と接続する語句 2時間</p> <p>◎指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。(1)エ)</p> <p>→指示する語句と接続する語句の役割を理解している。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。</p>
7月	<p>言葉を集めよう もっと「伝わる」表現をみざして 1時間</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)</p> <p>→言葉を集め、似た意味の言葉や修飾する言葉を考え、伝えたいことに合う的確な言葉を探している。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。</p>
7月	<p>読書を楽しむ 1時間</p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ)</p> <p>→さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書が知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立っていることを理解している。</p> <p>【態】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。</p>
7月	<p>本の中の中学生 あと少し、もう少し 西の魔女が死んだ ブラインドの向こうに見える光 読書案内 本の世界を広げよう 読書コラム 本との出会い 1時間</p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p>	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ)</p> <p>→読書が、知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立っていることを理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ)</p> <p>→文章を読み、理解したことを基に、自分の考えを形成している。</p> <p>【態】文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確か</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準
	<p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>	<p>なものにし、学習課題に沿って本を読んで考えたことを伝え合おうとしている。</p>
7月	<p>季節のしおり 夏</p> <p>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →夏に関わる言葉にふれ、それぞれの夏の情景を想像している。</p> <p>【態】 伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>

等により評価を行う。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準
9月	<p>大人になれなかった弟たちに……</p> <p>4時間</p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる(思・判・表C(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ →戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →描写に着目して、登場人物の行動や心情の変化を捉えている。</p> <p>【態】登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって朗読しようとしている。</p>
9月	<p>星の花が降るころに</p> <p>5時間</p> <p>◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。(1)オ →様子や動きを何かにたとえた表現を探し、どのような情景や気持ちをたとえているのか考えている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。(C(1)ウ) →場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。</p> <p>【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準
9月	<p>聞き上手になろう 質問で話を引き出す 1時間</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →話し手のスピーチに耳を傾け、聞いたことを基に、質問のしかたを工夫して聞き、対話をしながら話を十分に理解しようとしている。</p> <p>【態】進んで記録したり質問したりしながら、話の内容を捉え、今までの学習を生かして話を引き出そうとしている。</p>
9月	<p>項目を立てて書こう 案内文を書く 2時間</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理して案内文を書いている。</p> <p>【態】集めた材料を積極的に整理し、学習課題に沿って案内文を書こうとしている。</p>
9月	<p>【推敲】読み手の立場に立つ 1時間</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★行事の案内を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →正確でわかりやすい表現に書き改めている。</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立って、誤記はないか、表現は適切か、伝える情報が正確にわかりやすく書けているかななどを検討している。</p> <p>【態】粘り強く文章を整え、学習課題に沿って案内文を推敲しようとしている。</p>
10月	<p>言葉2 方言と共通語 2時間</p> <p>◎共通語と方言の果たす役割について理解することができる。(知・技(3)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学び</p>	<p>【知・技】共通語と方言の果たす役割について理解している。(3)ウ) →共通語と方言の役割や特徴について理解している。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準
	に向かう力, 人間性等)	
10月	漢字 2 漢字の音訓 1 時間 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え, その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また, 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き, 文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに, 進んで読書をし, 我が国の言語文化を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力, 人間性等)	【知・技】 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え, その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また, 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き, 文や文章の中で使っている。(1)イ) →漢字の音・訓について理解し, 熟語を正しく読んだり, 同じ熟語の音・訓の読み方を使って短い文を作ったりしている。 【態】 学習課題に沿って, 積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
10月	「言葉」をもつ鳥, シジウカラ 4 時間 ◎原因と結果, 意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の構成や展開について, 根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに, 進んで読書をし, 我が国の言語文化を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力, 人間性等) ★記録の文章を読み, 理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	【知・技】 原因と結果, 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →筆者がどのような事実を基にどのような仮説を立てたかについて, 理解している。 【思・判・表】 「読むこと」において, 文章の構成や展開について, 根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →筆者の意見と, それを支える根拠との関係を考えている。 【態】 文章の構成や展開について粘り強く考え, 学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
10月	思考のレッスン 2 原因と結果 1 時間 ◎原因と結果, 意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに, 進んで読書をし, 我が国の言語文化を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力, 人間性等)	【知・技】 原因と結果, 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →原因と結果がどうつながっているか整理し, 二つの関係について理解している。 【態】 今までの学習を生かして, 積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。
10月	根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く 5 時間 ◎比較や分類, 関係づけなどの情報の整理のしかた, 引用のしかたや出典の示し方について理解を深め, それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎書く内容の中心が明確になるように, 段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ◎根拠を明確にしなが, 自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに, 進んで読書をし, 我が国の言語文化を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力, 人間性等) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど, 事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	【知・技】 比較や分類, 関係づけなどの情報の整理のしかた, 引用のしかたや出典の示し方について理解を深め, それらを使っている。(2)イ) →情報を整理し, 自分の考えを裏づける資料やデータを選び, 出典の示し方に気をつけながら引用している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において, 書く内容の中心が明確になるように, 段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →自分の考えに説得力をもたせるようなレポートの構成を考えている。 ・「書くこと」において, 根拠を明確にしなが, 自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の考えを裏づける資料やデータを選び, アンケートで得られた情報を適切に関連づけて, 考察を導き出している。 【態】 文章の構成や展開を粘り強く考え, 学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準
10月	漢字に親しもう3 1時間 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ →小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
10月	【話し合い】 話し合いの展開を捉える 1時間 ◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ)	【知・技】 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →「上達のポイント」にある「根拠を述べる」「前の人の意見を受けて話す」「自分の意見と比較しながら聞く」「意見を整理する」「話がそれたときは元の話に戻す」を理解している。 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →話題や展開を捉えながら話し合うために気をつけることを理解し、課題に沿って発言内容を考えている。 【態】 進んで話題の展開を捉え、学習課題に沿って話し合いにおける発言のしかたについて考えようとしている。
11月	話題や展開を捉えて話し合おう グループ・ディスカッションをする 4時間 ◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ)	【知・技】 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →自分の考えをまとめる際に、意見に対する根拠を考えている。 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →話し合いの話題や展開を捉え、互いの発言を結び付けながら考えをまとめている。 【態】 積極的に互いの発言を結び付けて考えをまとめ、学習の見通しをもってグループ・ディスカッションをしようとしている。
11月	音読を楽しもう 大阿蘇 1時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →詩の言葉がどのように使われているか考えて、朗読をしている。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →繰り返しの表現や繰り返しながら変化している表現などに着目しながら考えている。 【態】 進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
11月	季節のおしり 秋 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →秋に関わる言葉にふれ、それぞれの秋の情景を想像している。 【態】 伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
11月	音読を楽しもう いろは歌	【知・技】

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準
	<p>古典の世界 1時間</p> <p>◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎古典にはさまざまな種類の作品があることを知ることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。 古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。(3)イ) →小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし、古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。 <p>【態】古典にはさまざまな種類の作品があることを積極的に知り、今までの学習を生かして古文を音読しようとしている。</p>
11月	<p>蓬萊の玉の枝 ——「竹取物語」から 4時間</p> <p>◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★物語などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →音読に必要な文語のきまり、古文特有のリズムについて理解し、その世界に親しんでいる。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の関係や思いに着目して読み、現代の自分たちと比べ、古典の世界と現代の人々に共通する部分を考えている。</p> <p>【態】進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を想像しようとしている。</p>
11月	<p>今に生きる言葉 【書く】 故事成語を使って体験文を書こう 2時間 (読①書①)</p> <p>◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★漢文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★本や資料から文章を引用して説明するなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →音読に必要な文語のきまり、漢文特有のリズムや言い回しなどについて理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →「矛盾」や、「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の基になった故事を調べ、どんな意味に使われるようになったか説明している。 「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →「矛盾」と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考えている。 <p>【態】積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。</p>
12月	<p>「不便」の価値を見つめ直す 【書く】 根拠を明確にして、意見をまとめよう 4時間 (読③書①)</p> <p>◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →意見と根拠の関係に着目して、必要な情報を取り出し、整理している。 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →要約するための情報の整理のしかたを理解し、自分の考えをまとめるときに要約や引用を明確に示している。 <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) →目的に沿って必要な情報を結び付け、要約している。 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ)

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準
	<p>文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>→賛成か反対か、立場を明確にして、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。</p> <p>・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>→立場を明確にして、自分の考えの根拠となる事例を挙げながら、意見をまとめて書いている。</p> <p>【態】積極的に必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめようとしている。</p>
12月	<p>助言を自分の文章に生かそう 作品の書評を書く 2時間</p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ)</p> <p>→書評を書き、助言し合う活動を通して、読書の意義を理解している。</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)</p> <p>→読み手からの助言を踏まえて、自分の書いた書評のよい点や改善点を見つけている。</p> <p>【態】読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を進んで見だし、学習課題に沿って書評を書き、助言し合おうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準
12月	<p>漢字に親しもう 4 1時間</p> <p>◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) →小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
12月	<p>文法への扉 2 言葉の関係を考えよう 2時間</p> <p>◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ) →「文節どうしの関係」「連文節」「文の組み立て」について、理解を深めている。</p> <p>【態】単語の類別を理解するために、今までの学習を生かして、積極的にその前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。</p>
12月	<p>考える人になろう 君たちはどう生きるか たのしい制約 読書案内 本の世界を広げよう 1時間</p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →読書の意義(=読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つこと)を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →筆者のものの見方や考え方が表れている部分に線を引き、考えたことをグループで発表し合う活動を通して、自分の理解を確かなものにしている。</p> <p>【態】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。</p>
12月	<p>季節のしおり 冬</p> <p>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →冬に関わる言葉にふれ、それぞれの冬の情景を想像している。</p> <p>【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	学習活動	評価規準
8 自分を見つめる			
1月	<p>少年の日の思い出</p> <p>【書く】別の人物の視点から文章を書き換えよう</p> <p>6時間(読④書②)</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもと」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ◇文章の中での語句の意味に注意させる。</p> <p>2 作品の展開を捉える。(学習①) ・語り手の転換に注意しながら、全体が前半と後半の二つに分かれていることを確認する。 ・時間、場所、出来事に着目しながら、後半をいくつかの場面に分け、概要を短くまとめる。 →P212窓「語り手に着目する」</p> <p>3 「僕」の心情の変化をまとめる。 ・「僕」から見た「エーミール」の人物が描写されている部分を探して抜き出す。(学習②-1) ・クジャクヤママユのうわさを聞いてから、盗み、壊すまでの「僕」の心情の変化をまとめる。(学習②-2) ・最後に収集したちょうを潰す「僕」の行動を基に心情を捉える。(学習②-3) ◇作品に使われている「熱情」という言葉について考え、読み取りの手立てとするとよい。 →P213言葉</p> <p>4 別の人物の視点から文章を書き換える。(学習③) ・人物を決め、書き換える場面を選び、創作する。 ◇「母」「エーミール」以外にも、「作品前半の語り手」など、幾つかの視点を与えるとよい。 ・書き上げた文章を読み合い、感想や意見、作品や登場人物について発表し合う。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・「僕」の考え方や感じ方について、共感することや疑問に思うところを話し合う。 ・別の登場人物の視点も踏まえて読むことで、自分の考えや作品の印象はどのように変わったか、挙げる。</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →場面描写の言葉や登場人物の心情を表す言葉に着目している。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ) →登場人物の考え方や感じ方について、自分の考えをもっている。</p> <p>・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →別の人物を選び、その人物の心情や行動が明確になるように構成や展開を工夫して書いている。</p> <p>【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもつて別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。</p>
1月	<p>漢字に親しもう5</p> <p>1時間</p> <p>◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。 →P19「言葉を調べる(漢和辞典)」 →P258「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P302窓「一年生で学習した漢字」 →P317窓「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P255「[練習]小学校六年生で学習した漢字」にあわせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) →小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
1月	<p>文法への扉3</p> <p>単語の性質を見つけよう</p> <p>2時間</p> <p>◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ)</p>	<p>1 P189の例題に取り組む、単語の性質について考える。 ・単語を組み合わせる過程で、性質の違いに気づき、それによって分類できることを理解する。</p> <p>2 P247-250文法3「単語の分類」を読み、「自立語と付属語」、「活用の有無」、「品詞」、「体言と用言」につ</p>	<p>【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ) →「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深めている。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に単</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	学習活動	評価規準
	<p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>いて理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。 ◇必要に応じて、P251-254の活用表を用いて理解を深めさせる。</p>	<p>語の類別について理解しようとしている。</p>
1月	<p>随筆二編 2時間</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★随筆を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>2 語句や表現の工夫に着目する。(学習①) ・印象に残った語句や表現を挙げる。 ◇情感のある表現に着目させ、語感を磨き語彙を豊かにしていきたい。 ◇「印象に残った語句や表現」で伝わりにくい場合には、「情感のある表現」と指示することも考えられる。「空はどのように描写されているだろう」「父親とのやり取りで、しみじみとしたよさを感じる部分はどこだろう」などの指示に置き換えると、さらにわかりやすくなる。 →P196「季節のしおり 冬 雪にまつわる言葉」 →P81「言葉を集めよう 紹介文の例」 →P99「大人になれなかった弟たちに……」(母への思いの描写)</p> <p>3 筆者の考えや思いについて話し合う。(学習②) ・筆者が「風花」ではなく「空」という題名を付けたのはなぜかを考える。(学習②-1) ・「えんぼう」という言葉は、幼い「私」にとってどのような意味をもっていたと筆者は考えているか、話し合う。(学習②-2) ◇「空」は自然の美を感じた経験、「えんぼう」は言葉についての古い記憶について述べている点を押さえたい。</p> <p>4 自分の体験を振り返って伝え合う。(学習③) ・自分自身の体験を振り返り、忘れられない「自然の美しさ」や「言葉」について伝え合う。 →P219窓「随筆を味わう」 →P264窓「文学的な文章を読むために」 ◇P220「構成や描写を工夫して書こう」の前段階の学習であることを踏まえて指導するとよい。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・印象に残った語句や表現について話し合う。 ・筆者の思いや考えについて共感するところなど、随筆を読むことで生まれた感想を交流する。</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →「空の描写」や「父親とのやりとり」がどのように表現されているかを理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ) →場面の展開や描写に着目しながら、筆者の「空」についての思いや「父親」への思いを捉えている。</p> <p>【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。</p>
	<p>体験を基に随筆を書く 4時間</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 随筆の題材を選ぶ。 ・随筆に取り上げたい体験を思い出し、一つ選ぶ。 ◇P220-221下段「体験から思い出す」「テーマから思い出す」を参考にさせるとよい。 →P216「随筆二編」 →P272窓「発想を広げる」</p> <p>2 具体的な材料を書き出す。 ・エピソードについて、材料を付箋に書き出す。 ・より詳しく思い出したり、エピソードの意味を見つめ直したりして、エピソードを掘り下げる。 ◇P221下段の具体例や書き方を参考に、「事実」</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使っている。</p> <p>【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ)</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	学習活動	評価規準
	<p>◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★随筆を書き、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	<p>と「意味づけ」に分けて書かせるとよい。</p> <p>3 構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋などの記述を基に構成を考え、友達と助言し合う。 ◇P222「随筆の例」を参考に。導入では「印象的な書きだし」を、体験の説明では「読み手に状況がイメージできる具体的な描写」を意識し、最後に「自分にとっての意味、価値」を書くことを伝え、構成のイメージをもたせるとよい。 →P186「助言を自分の文章に生かそう」 <p>4 随筆を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書きだしや描写を工夫し、600～800字程度で書く。 →P222「書きだしを工夫する」 →P222窓「印象に残る随筆を書くには」 →P223「達人からのひと言」 <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験や思いを伝えるために、言葉を吟味して選んだか。 ・どのような点を工夫して随筆を書いたか。 ◇P221「つなぐ」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。 	<p>→読み手に状況がイメージできるように、書く内容の中心が伝わるように、構成を工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →書きだしや結び、出来事を、言葉を吟味し、描写を工夫して書いている。 <p>【態】粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。</p>
2月	<p>言葉 3 さまざまな表現技法 2 時間</p> <p>◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>1 導入の例を読み、表現による印象の違いを挙げる。</p> <p>2 P224「言葉の並べ方の工夫」を読み、表現技法によるリズムの違いや効果について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例文を基にそれぞれの技法の特徴を理解する。 <p>3 P225「比喩」を読み、比喩の種類による印象の違いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例文を基に、比喩の特徴を理解する。 ◇P226「生活に生かす」を読み、日常生活の中でも、比喩を使うことで物事を効果的に伝えることができることを伝えとよい。 →P73「比喩で広がる言葉の世界」 	<p>【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)</p> <p>→比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。</p> <p>【態】積極的に比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し、学習課題に沿ってそれらを使おうとしている。</p>
2月	<p>漢字 3 漢字の成り立ち 漢字に親しもう 6 1 時間</p> <p>◎小学校学習指導要領第2章第1節 国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>1 漢字の成り立ちについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「象形」「指示」「会意」「形声」を用例とともに確認する。 ・国字について知る。 ・漢字の分類「六書」について知る。 <p>2 漢和辞典を利用して練習問題を解き、漢字の成り立ちを調べ、分類する。</p> <p>→P19「言葉を調べる(漢和辞典)」</p> <p>3 P229「漢字に親しもう6」の問題に取り組む。</p> <p>→P258「小学校六年生で学習した漢字一覧」</p> <p>→P302窓「一年生で学習した漢字」</p> <p>→P317窓「一年生で学習した音訓」</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p> <p>◇P255「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」にあわせて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節 国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)</p> <p>→漢字の成り立ちについて理解し、漢和辞典を使って調べている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
3月	<p>一年間の学びを振り返ろう 要点をフリップにまとめ、発表する 5 時間 (話聞③書②)</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 観点を決め、一年間の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印象に残っていることや興味を引かれたことの中から、振り返る観点を決める。 ・決めた観点を教科書やノートなどを読み返し、集 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながら発表をしている。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	学習活動	評価規準
	<p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>めた情報をカードなどに書き出す。</p> <p>◇複数の物事に共通する特徴と、それぞれにしかない特徴を分類する。</p> <p>→P32「情報整理のレッスン 比較・分類」 →P34「情報を整理して書こう」 →P230-231下段「観点を探す」「観点の例」</p> <p>2 集めた情報を整理し、発表内容を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類したり比較したりして整理する。 ・整理した情報を基に、発表する内容を選ぶ。 <p>→P54「話の構成を工夫しよう」 →P233^窓「集めた情報からテーマを見いだすには」</p> <p>3 話の構成を考え、フリップを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何をどのような順序で話すか、構成を考える。 ・画用紙などに要点をまとめたフリップを作る。 <p>◇P36「構成を考える」の説明のしかたを参考にとよい。</p> <p>4 グループ内で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、フリップを見せる。 ・表情やうなずきなどから、聞き手が話を理解しているかどうかを確かめながら話す。 ・話す内容に合わせて、声の調子や間の取り方を工夫する。 ・聞き手や場に応じて、言葉や表現を工夫する。 <p>→^{DVD}</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点を決めて、一年間の学習を振り返ることができたか。 ・自分の考えをわかりやすく伝えるために、どんなことに注意したか。 <p>◇P231「つなぐ」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	<p>理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p> <p>→情報の整理のしかたを理解し、要点をわかりやすくフリップにまとめている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) <p>→聞き手や場に応じて、発表の言葉や表現を変えるなどの工夫をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) <p>→「観点」に見合った情報を集め整理し、内容が伝わる端的な言葉をフリップに書いている。</p> <p>【態】集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点をフリップにまとめ、発表しようとしている。</p>
3月	<p>さくらの はなびら 1時間</p> <p>◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えを確かなものにするすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★詩を読み、考えたことなどを伝え合う。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 詩を読み、印象に残った表現を発表する。(学習①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩の中で印象に残った言葉や表現を抜き出し、理由とともに発表する。 <p>◇平易な言葉で書かれた短い詩であるため、言葉が素通りして、印象に残らない生徒もいるだろう。その場合、あまり時間をかけずに学習②へと授業を展開する。</p> <p>2 三つの表現の意味を考える。(学習②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①～③の表現について意味を考える。 <p>◇P236下段の黄色の吹き出しの言葉に着目させて、理解を促すとよい。</p> <p>→P224「言葉3 さまざまな表現方法」</p> <p>3 作者の思いについて語り合おう。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み深めたことを基に作者の思いを想像し、考えたことを語り合う。 	<p>【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)</p> <p>→詩に用いられている表現の技法を理解し使っている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ)</p> <p>→詩の解釈を通して理解したことに基いて、自分の考えを確かなものにしていく。</p> <p>【態】文章を読んで理解したことに基いて、積極的に自分の考えを確かなものにし、考えたことを伝え合おうとしている。</p>
3月	<p>学習を振り返ろう 3時間(読①話聞①書①)</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)</p>	<p>1 P260の説明文を読み、学習課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網走地方気象台の観測記録から、どんな事実が明らかになったか、二つに分けて書く。 ・「流氷の減少は、人類に対する自然からの警告かもしれない。」について。どのような警告かを考えて書く。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) <p>→曲名と歌の一節を引用する方法を</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	学習活動	評価規準
	<p>イ)</p> <p>◎共通語と方言の果たす役割について理解することができる。(知・技(3)ウ)</p> <p>◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>◎根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p> <p>★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>→P46「ちょっと立ち止まって」</p> <p>→P126『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ</p> <p>◇「つなぐ」を読み、事実と意見を読み分けること、接続語や文末表現に着目しながら読み進めることの大切さを確認させたい。</p> <p>2 P261の方言に関するスピーチを聞き、学習課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「飲まさる」についてまとめる。 ・「このように」からはじまる段落の言い換え表現を考える。 <p>◇教科書の文章を読ませてもよいが、音声を開かせてメモを取らせたいほうが望ましい。</p> <p>→DVD・二次元コード</p> <p>→P54「話の構成を工夫しよう」</p> <p>→P121「言葉2 方言と共通語」</p> <p>◇「つなぐ」を読み、紹介や報告をわかりやすく伝える際の工夫について確認するとよい。</p> <p>3 P262の卒業ソングに関する新聞記事を読み、学習課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近の卒業ソングの傾向として挙げられることを、教科書の空欄に書き込む。 ・卒業式でどんな歌を歌ったり聞いたりしたいかを、「条件①」「条件②」に従って書く。 <p>→P64「情報を引用しよう」</p> <p>→P138「根拠を示して説明しよう」</p> <p>◇「つなぐ」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	<p>理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通語と方言の果たす役割について理解している。(3)ウ) <p>→課題にある方言の例を読み、共通語と方言の果たす役割について理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →温暖化による流氷の減少が、環境に与える影響について、網走気象台の観測記録からわかった事実を二つに分けて書いている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ) →「……という警告。」で終わる形になるように、筆者の示した情報と自分の考えを結び付けて書いている。 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →話すときは、聞き手の反応を踏まえて、伝えたいことが伝わるように表現を工夫している。 ・「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →卒業式で歌ったり聞いたりしたい歌について、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠となる事例を挙げて文章を書いている。 <p>【態】今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。</p>